

事業成果報告書

※2017 年 7 月末日までに、次のアドレスにメール添付でお送りください。

竹村和子フェミニズム基金 <t-fund@npo-ochanomizu.org>

1. 個人または団体名(団体の場合は代表者名も記入)	
NPO 法人フォトボイス・プロジェクト (代表者名: 吉浜美恵子 湯前知子)	
2. 研究または活動のテーマ(課題名)	
東日本大震災で被災した女性たちの写真と「声」集 出版 (フォトボイス PhotoVoice)	
3. 助成額	
50 万円	
4. 実施期間	
2016 年 7 月 ~ 2018 年 2 月 10 日	
5. 実施状況	
2016 年 7 月 ~2017 年 12 月	各グループ実施 (岩手県宮古市、宮城県仙台市・石巻市・女川町、福島県郡山市、東京近郊。9 月福島市で新グループ開始)
2017 年 4 月~8 月	全写真と声のデータ整理および撮影者・声作者との確認作業
2017 年 8 月	竹村基金へ延長願い提出
2017 年 7~8 月	写真と声の分析およびテーマの抽出・選定
2017 年 5 月~10 月	編集会議 平均週 1 回
2017 年 10 月	竹村基金へ再延長願い提出
2017 年 9 月~12 月	解説執筆と推敲
2017 年 12 月 ~2018 年 1 月	デザイナーによるレイアウトと校正、および撮影者・声作者と再確認作業
2018 年 1 月	印刷所での組版と校閲作業および画像補正作業
2018 年 2 月 10 日	写真と声集 No.2 完成
6. 事業成果と自己評価	

写真集 N0.2 は、これまで防災、災害対応や復興などの取組みにおいて、反映されにくかった被災した女性たちの経験や視点を フォトボイスを用いて明らかにし、記録し、社会により広く発信していくことを目指している。

これまで7年近くにわたり、被災各地や避難先の東京近郊において、被災した女性たちが撮りつづけてきた写真は膨大な数におよぶ。各地のグループでの反復的な話し合いを経て、検討され練り上げられてきた社会に伝えたいメッセージ[声]は、防災、災害対応、復興に関する示唆に富んでいる。本書では、それらを分析し、浮かび上がってくる主題を整理し、それを明示する写真と声を選定し、それぞれの主題に即した説明やポイントを提示した。

本書の内容は、1章においては、フォトボイスという手法についての解説とともに、実際の活動がどのようなものか、写真を撮るという行為がどのようなものなのかを明らかにした。2章では、多様な女性たちが経験した(見聞きした)東日本大震災を11項目に分類し、さまざまな喪失や避難をめぐる経験、地元産業への影響などを多面的に紹介した。さらに、これまで論じられることが少なかった、震災後の性に基づく暴力についても言及した。

3章では、震災撮影した女性たち自身、家族や隣人、地元の人々が震災やその後の生活にどのように対応したかをまとめた。4章では、長期におよぶ影響と復興の過程に焦点をあてた。5章は、「知見・提言・警鐘」と題し、写真と声およびグループでの話し合いで掘り下げてきた、防災、災害対応、復興に関する問題提起を試みた。防災・避難対策の課題、支援の課題、復興の課題というテーマに加えて、フォトボイスから見(え)るジェンダーについても考察した。6章では、次世代への責任などのテーマで、東日本大震災の経験を今後どのようにつなげていくべきなのかを提示した。

各章に施した短い解説および必要に応じて書いた補足的な情報や説明のコラムでは、データや先行研究を引用しながら、何が問題なのか、どのような社会的要因が絡んでいるのか、などを読者自身が考えたり気づききっかけになるよう工夫した。

本書の執筆・編集に向け、これまで蓄積してきた多数の写真と声を分析整理することで、それらの社会的意味づけを明確にした。

プロジェクトの参加メンバー(撮影者および声の作者)にとっては、自分たちの経験を外在化し、防災、災害対応や復興について考えるきっかけとなった。また、自分が撮った写真がどのような意味をもつのかなどを改めて気づかされたなどの声が聞かれた。

今後、本書を災害・復興関連機関、公的図書館、大学の図書館や研究機関、女性会館等に配架を要請していく計画である。また、書評にとりあげてもらおうよう関係者に打診中である。